



第38号

平成31年2月1日発行

福岡県立学校事務職員協会

会長の年頭挨拶

「頼まれる力」

新年のスタートにあたり、会員の皆様に年頭の御挨拶を申し上げます。旧年中は本協会の活動に御支援と御協力をいただき、誠にありがとうございました。

昨年、自然災害や異常気象に見舞われ、学校の事務室にとっては対応に追われた1年でした。特にブロック塀の改修工事はまだ終了しておらず、該当校の施設担当の方は本当にお疲れ様です。

今年は5月1日の新天皇の即位に伴う元号の改定や10月から消費税が10%に引き上げられる等事務職員にとっては変革の年になりそうです。さらに、本県においては1月より「教職員の働き方改革取組指針」を受けて教職員の勤務時間の把握を行う目的で勤務時間管理システムが開始になりました。タイムレコーダー導入や校務用パソコンを用いて勤務時間を管理するようになり、服務事務が大きく変わります。教職員の超過勤務縮減に役立つ事が期待されます。

さて、平成30年11月22日(木)に「国立オリンピック記念青少年総合センター」で開催された「全国協会理事会」の報告をいたします。

また、同日、全国協会主催で「中堅事務職員研修会」も開催されました。参加された4名の方の報告がこの協会だよりに掲載されていますので、是非読んでください。

1. 全国大会

第71回山口大会は平成30年7月25日(水)～27日(金)「教育の改革と発展をめざして」～学校経営事務の充実～という統一テーマのもとに山口市にて開催された。

総参加者数717名(うち福岡県44名、全国で2番目に多い。)

第72回兵庫大会は2019年7月24日(水)～26日(金)姫路市にて開催される。

※福岡県から筑豊地区事務研究委員会の研究発表あり。

2. 全国協会要覧

平成30年度版より電子データで配信。全国協会ホームページに掲載されている。(会員パスワードkaiin2014)

3. 全国大会特別分科会

兵庫大会では特別分科会が実施される。大量退職時代を迎え、新規採用職員が増加する一方、仕事を教え、伝承できる30代から40代の中堅事務職員が学校現場において少なくなっている現状を踏まえ、各協会から推薦を受けた若い職員が一堂に会し、悩みや課題について意見交換、討議を行い、その成果をそれぞれ持ち帰って仕事の工夫・改善に役立ててもらおうという趣旨のもので、第1～第3分科会とは別日程で実施の予定。

4. 文部科学省国立教育政策研究所からの調査

文部科学省科学研究費助成事業として、学校事務職員の職務行動及び意欲に関する調査が実施される。研究官の藤原文夫氏からの調査依頼文書が11月に発送され、全国の都道府県立学校事務職員の意識調査が行われる。

5. 全国協会会長から

平成30年7月の豪雨災害にかかる募金協力について、お礼の言葉があった。

また、休会や活動休止する協会が増えているため、全国大会の開催順番の見直しが必要である。

以上が理事会の報告です。

来年度の九州大会は宮崎県宮崎市で、全国大会は兵庫県姫路市で開催されます。両大会ともに福岡県からの研究発表が行われます。九州大会では筑後地区事務研究委員会の「学校事務職員の現状と課題、今後の改善に向けて」～ワークライフバランス実現のための仕事とのつきあいかたを考える～、全国大会では筑豊地区の「ワークライフバランス」～意識を変える～というテーマで発表が行われます。共に同じようなテーマにはなりましたが、切り口は異なります。皆さん、是非、応援をお願いします。

宮崎の次は福岡にいよいよ順番が回ってきます。2020年6月17日(水)～19日(金) アクロス福岡イベントホールで開催の予定です。大会を成功させるため一致団結して頑張りましょう。皆さんに実行委員になってほしいと声がかかるかもしれませんが、その時は忙しいと言って嫌がらずに快く引き受けてください。昔から『仕事は忙しい奴に頼め』という名言があります。これは忙しい人ほど、仕事をする能力が高く、いい仕事をするという意味です。頼まれやすい人は、それだけ期待されているのです。どんな仕事でも引き受ける気持ちがあれば、それが結果として成長につながります。

また『頼まれ事は試され事』という言葉もあります。些細な仕事であっても、頼んだ側はその人のことを試しているという意味です。試されていると思えば、相手の予想を上回る仕事をしようと努力し、良い結果を出すことができるでしょう。

最後になりますが、本年が皆様にとって希望に満ちた明るい年でありますことを御祈念申し上げますとともに、今後も会員の皆様のお役に立てるように活動を続けて参りますので、本協会の事業に積極的に御参加いただくと共に、その活動の活性化に向けて、更なる御理解、御協力をよろしくお願いいたします。

(会長 武田 美余)

各 地 区 活 動 報 告

●北九州地区 (会長 生田 千博)

北九州地区では、業務の改善について研究を行い、また自発的研修を行うことにより、学校間の連携と事務職員の資質、職務遂行能力の向上を図ることを目的として活動しています。

本年度は、下記の事業を実施しています。協会の活動に際しまして、今後も、会員の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【実務研修会】

平成30年7月11日(水) 小倉リーセントホテル 13:00～

1. 講義①「公立学校共済組合について」～各校からの質問への回答～

講師 公立学校共済組合福岡支部給付係

係長 堤 和弘 氏、主任主事 貞方 幸司 氏

2. 講義②「給与について」～各校からの質問への回答～

講師 教育庁教育総務部財務課給与係

係長 鬼丸 良輝 氏、主任主事 森藤 潤也 氏

3. 研修 「グループディスカッション」～給与や共済手続きについて徹底的に論議しよう～



【地区別研修会】

平成 30 年 8 月 31 日(金) 小倉リーセントホテル 13:10～

1. 講演 「教育&学校現場のコンシェルジュ～フロントマン～を目指そう！」

講師 千草ホテル 企画部兼レストランチーフ 小野山 美緒 氏

“コンシェルジュ”への近道となるキーワードとして“対話”をあげられ、その“対話”を通し、人との“関係性”を作ること、ホスピタリティ(温かさ、思いやり)、しなやかマインド(何事にも失敗を恐れずに挑戦し、学び続ける努力を惜しまない心)の重要性を教えてくださいました。



2. 研修① 「グループワーク」

1 「対話」のトレーニング

2 「発想」を引き出す&「意見交換」のトレーニング

3 問題抽出→ヒントを導き出すコツを掴む為のトレーニングワーク

3. 研修② 「全体発表」

グループワークにより、“学校事務職員”の意味を10年後に向けて派生解釈させ、各班ごとにその内容を全体へ発表しました。

【新規採用事務職員等研修会】

(前期) 平成 30 年 6 月 13 日(水) 小倉リーセントホテル 9:45～

1. 講義① 地区協会理事による講義「事務職員としての基礎基本」

2. 研修① 新規採用事務職員等 10 名による発表「自己紹介(5分間スピーチ)」

3. 講話 「新規採用職員に伝えたいこと」

講師 門司大翔館高等学校 事務長 木村 稔彦 氏

4. 講義② 地区協会理事による講義「実務の基本を学ぶ」

5. 研修② 「まとめトーク」～研修を受けて感じたこと、考えたこと、日頃の思い、悩み～



(後期) 平成 31 年 1 月 18 日(金) 小倉リーセントホテル 9:00～

1. 研修① 「アクティブラーニングを通して、自分の仕事を見つめよう。」

2. 研修② 「お気に入りの新聞記事でコミュニケーションを図ろう。」

気になる新聞の切り抜きの紹介及びアクティブラーニングを活用し、新採職員各々がやっている日々の業務から1つ抜粋し、業務の基本的な流れを発表し、その後、課題や疑問点を新採同士や理事と一緒に考え学びました。

【次世代を担う若者育成塾】

平成 31 年 1 月 18 日(金) 小倉リーセントホテル 13:20～

1. 講演 「初心にかえって？」

講師 小倉工業高等学校 事務長 柳本 憲男 氏

2. 研修 グループ討議及び全体発表・フリートーク

「講演を受け、自分を見つめ直す

～次世代を担う若者としてやれること、やるべきこと～

「次世代を担う若者」の人間力育成」をテーマに主任主事・主事対象の研修を行いました。

【将来構想検討委員会】

今年度は「事務研究委員会」を発展拡大継続、「パソコン研究委員会」を一時休止とし、「将来構想検討委員会」を発足しています。

協会、各委員会の今後の在り方について、若手職員を中心に構想・検討し、新しい試みに向けて取り組んでいます。

第1回会議	平成30年	6月19日(火)	小倉リーセントホテル	14:00～
第2回会議	平成30年	8月29日(水)	小倉リーセントホテル	14:00～
第3回会議	平成30年	10月1日(月)	小倉リーセントホテル	14:00～
第4回会議	平成30年	10月25日(木)	小倉リーセントホテル	14:00～
第5回会議	平成30年	12月4日(火)	小倉リーセントホテル	14:00～

●福岡地区 (会長 喜多 浩之)

福岡地区では、研修主任の設置等により充実した組織とし、会員相互の連絡・調整をとりながら、会員の資質の向上を図り学校教育の発展に寄与することを目的として、研究と研修を行っています。特に、財務会計の適正な処理を重視して、学校間の連携、職員間の連携を大切にしながら点検や情報交換等の取組を実施しました。また、事務処理能力の向上と学校運営参画意識の向上を目指して、職員が一丸となって様々な業務を行うため、次の活動を行いました。

【実務研修会】

平成30年9月28日(金) 修猷館高校 14:25～16:50

1. 講義 「人事評価に係る給与への反映について」
講師 財務課 給与係長 鬼丸 良輝 氏
2. 講義 「平成29年度監査・会計指導結果について」
講師 財務課予算係 主任主事 矢木 隆寛 氏

本年度より人事評価結果が給与に反映することになったため、研修が実施された。教育職員を中心にパターンごとの丁寧な説明が行われた。また、平成29年度の監査等において指導事項等となったものについて内容の説明及び注意すべき点について、参考資料を含めて説明がなされた。

【監査対策点検】

同一地区内で点検者を選考して派遣依頼を行い、9月～12月に定期監査現地校(13校)に出向き点検を実施した。また、採用3年目職員(義務制からの転入者を含む)は、研修の一環として、点検を行った。

【初任者研修会】

採用1～3年目を対象とした研修会を開催し、市町村からの転入職員を含む22名が参加して実務研修等を実施しました。

〈第1回〉平成30年7月24日(火) 修猷館高校 13:20～

- ① 事務長講話「事務長から、これからの世代に向けて」
- ② グループ討議「日常業務の問題点や困りごと、それらの対処法」
- ③ 先輩職員(参事補佐兼事務次長)講話「学校事務職員の仕事1」

〈第2回〉平成30年10月30日(火) 修猷館高校 13:55～

- ① 採用1年目職員による発表「学校PR」(4名)
- ② グループ討議「学校事務職員と給料」

③ 先輩職員（参事補佐兼事務次長）講義「学校事務職員の仕事 2」
〈第 3 回〉平成 31 年 1 月 23 日（水） 修猷館高校 13:15 ～

- ① 実務研究発表（2 年目職員による発表 9 名）
- ② 講評（副会長）

【3 ブロック別研修会】

定期監査等の状況について、指導のポイントやその対応など内容の確認・検討を行い、疑問点についての意見交換・解決策の研究を通して情報の共有や事務スキルの向上を目的にブロック別研修会を実施しました。

- ① 日時 平成 30 年 12 月 21 日（金）東ブロック 場所 玄界高校
- ② 日時 平成 30 年 12 月 14 日（金）西ブロック 場所 修猷館高校
- ③ 日時 平成 31 年 1 月 10 日（木）南ブロック 場所 福岡農業高校

昨年度に引き続き実施しました。参加者はお互いに顔見知りとなり、活発な情報・意見の交換がなされました。

【事務研究委員会】

平成 24 年度から事務室が使いやすい危機管理マニュアルの作成に向けての研究を行い、平成 26 年度の九州大会（ホルトホール大分）で発表しています。

それ以降、状況の変化（環境整備班の完全導入等）に対応できるよう研究を進め、今年の県の総会で発表を行ったところです。

これからは、現テーマの研究を続けるか、新しいテーマの研究を行うか検討しているところです。

【パソコン研修会】

Office 2013 などの業務に役立つ情報を提供し、研修を行っていきたいと思っております。

【地区別研修会】

平成 30 年 9 月 14 日（金） 福岡リーセントホテル 13:00 ～ 17:00 参加者 29 名

1. 講話 1

「部落差別の解消の推進に関する法律について」

講師 福岡県教育庁教育振興部人権・同和教育課 指導班 指導主事 祖田 伸二 氏

（内容）平成 28 年 12 月に施行された部落差別の解消の推進に関する法律の内容について、プロジェクターを使用して解説がありました。

2. 講話 2

「ラグビーワールドカップが福岡にやってくる！～4 年に一度じゃない。一生に一度だ。～」

講師 ラグビーワールドカップ 2019 福岡県開催推進委員会 藤波 宏幸 氏

（内容）「2019 年に全国の会場で行われるラグビーワールドカップについてご講話をいただきました。ラグビーの初心者でもわかるようにルールについてプロジェクターを使用して解説がありました。」

3. 講話 3

「各家庭で取り組む防災対策」

講師 福岡県総務部 防災危機管理局 防災企画課 主任主事 古瀬 慎一朗 氏

（内容）近年、様々な災害が発生している中で備蓄や避難所運営という観点からご講話をいただきました。

また、最近は保存食の種類が増えているとのことで、実際にレトルト保存食の試食会が実施

されました。

4. 班別討議及び発表

「学校における防災対策～各学校の取り組みについて～」

(内容) 学校における防災対策について、4班に分かれて、予め模造紙に問題提起されている内容を各班で話し合い、その後発表を行いました。また、講師の古瀬氏にも引き続き、指導・助言者として参加していただきました。他校の取り組みや様々な観点からの意見はとても参考になったという感想をいただき、いつ発生するかわからない災害について事務職員としてどう行動するかを考えるきっかけとなり、有意義な班別討議となりました。

●筑後地区 (会長 田中 利幸)

筑後地区では、会員相互の連絡・調整と会員の資質向上を図るために、次の研修会・研究活動を行いました。また、実務研修の一環として筑後地区県立学校事務長会との共催で、支部単位で監査現地校事前点検会議を実施しました。さらに、筑後地区5支部において支部研修会を行い、その後懇親会を開催し支部内会員の交流を図りました。

【実務研修会】

平成30年7月31日(火) 九州歴史資料館

1. 講義 「給与事務について」

講師 教育庁教育総務部財務課給与係 主任主事 梅原 遼平 氏

2. 講義 「旅費事務について」

講師 教育庁教育総務部財務課給与係 主任主事 森藤 潤也 氏

【地区別研修会】

平成30年9月21日(金) 教育庁北筑後教育事務所

1. 講座 「県の監査委員制度」

講師 監査委員事務局総務課 副課長 緒方 和広 氏

2. 講話 「部落差別の解消の推進に関する法律について」

講師 教育庁教育振興部人権・同和教育課 指導主事 祖田 伸二 氏

3. 説明 「文書管理規程について」

講師 教育庁教育総務部総務企画課文書・法人係 主事 池田 和生 氏

4. 講習 「音楽を用いて、心身の健康の回復や向上を促す方法」

講師 公立学校共済組合職場の健康づくり支援事業 講師 土田 菜七実 氏

【新規採用事務職員等研修会】

第1回 平成30年7月18日(水) 福岡県立八女高等学校

内容 パソコン演習

第2回 平成30年11月13日(火) 教育庁北筑後教育事務所

内容 事例協議、職場訪問「北筑後教育事務所」及び概要説明

第3回 未定

【事務研究委員会】

昨年度に引き続き、来年度の九州大会での発表に向けて、「学校事務職員の現状と課題、今後の改善に向けて」をテーマに研究を行いました。

アンケート調査で得られた内容を分析して研究内容をまとめた発表原稿が完成し、現在は発表で使用する画像等の資料を作成している状況で、最終準備を進めているところです。

来年度に宮崎県で開催される九州大会で、研究の成果を発表します。皆様の御参加をお待ちしております。

【パソコン研究委員会】

昨年に引き続き新規採用者の研修会で、MS Word と Excel の講義を行いました。昨年度の反省を活かし、PC を操作しながらの演習を増やした結果、新規採用職員の反応も良く、実際の業務でも学んだことを活かしてくれているようです。

※お願い：部共有のテンプレート倉庫のフォルダに様々な場面で役立つ Excel ファイルを置いておりますので遠慮なく使ってください。ただし、所属にコピーしてから入力してください。

●筑豊地区 (会長 平尾 昌彦)

筑豊地区は 16 校の学校で構成されており、学校教育活動の充実・発展に寄与することを目的として、会員の資質向上を図るために研修並びに研究を行っています。

【新規採用職員等研修会】

(1) 第 1 回 平成 30 年 8 月 3 日(金) 立岩公民館にて開催

① 新規採用職員スピーチ 12 人

② 実務研修 採用 3 年目の職員 3 名がそれぞれ担当業務に関する講義を実施

「県外旅費について」「収入事務について」「定時制夜間学校給食事務について」

(2) 第 2 回 平成 30 年 12 月 7 日(金) たがわ情報センターにて開催

① パソコン研修会「エクセル」 (株)クリエイティブジャパン 植木 伸一郎 氏

② 意見交換会

(3) 第 3 回 平成 31 年 1 月 11 日(金) 筑豊教育事務所にて開催

① 実務研修 採用 3 年目の職員 4 名がそれぞれ担当業務に関する講義を実施

「奨学金事務について」「就学支援金・奨学給付金事務について」

「服務事務について」「就学奨励費事務について」

② 講義「個人情報保護について」

③ 参事講話 直方高等学校 参事兼事務長 末松 浩二



【会計事務相互点検】

9 月～ 10 月に事務主査・事務次長会が中心となり、今年度の現地監査実施校 (6 校) に赴き監査対象期間内の諸帳簿の点検・確認を行いました。

【会計実務研修会】

平成 30 年 7 月 12 日(木) 東鷹高等学校にて開催

① 講義「平成 29 年度監査・会計指導結果について」 財務課予算係 主任主事 矢木 隆寛 氏

② 講義「人事評価と昇給について」 財務課給与係 主任主事 梅原 遼平 氏

③ 講義「赴任旅費の制度改正について」 財務課給与係 主任主事 森藤 潤也 氏

④ 講義「授業料制度について」 財務課学校予算係 参事補佐兼学校予算係長 坂田 健三 氏

【地区別研修会】

平成 30 年 9 月 28 日(金) パドドゥ・ル・コトブキにて開催

(1) 説明「部落差別の解消の推進に関する法律について」

講演「人権・同和教育に関する諸問題について」人権・同和教育課指導主事 田丸 めぐみ 氏

(2) 研究協議「事務職員に求められるスキル～折衝力・交渉力～」

発表者	嘉穂高等学校	主事	石橋 俊明
	直方特別支援学校	主任主事	塩出 一平
	嘉穂総合高等学校	参事補佐兼事務次長	佐々木 志津子
助言者	田川高等学校	参事兼事務長	佐藤 一孝

3人の発表を受け、各階層を3班に振り分けて協議を行いました。発表者の折衝力・交渉力を題材にして話題が広がり、業務に活かせるヒントや、即実践できるような意見など活発な協議となりました。

(3) 説明「文書管理規定運用要綱の改正について」

総務企画課文書・法人係 主事 池田 和生 氏

【定時制課程事務職員研修会】

今年度も年間4回開催し、筑豊地区定時制課程4校の事務職員が一同に集まり、定時制事務のうち主に夜間給食や校納金について討議、意見交換を行いました。

各研究部報告

●事務改善委員会(委員長 木下 賢司)

1. 平成30年度の活動

平成27年度から事務改善委員会は、次のような活動を継続して行っています。

本委員会の方向性として求められている調査、研究、文書のうち、文書に焦点を当て活動を進めており、その内容は、『業務に関連する通知文書の収集、PDF化及び保管を行い、会員向けのデジタルアーカイブズ(古文書館)を構築し、同時に保管する』というものです。

県からの通知文書を集約し、会員がいつでも閲覧できるようになれば、我々が日々の業務を行う上で効率化にもつながっていくと考えます。

対象となる文書ですが、すべての文書となると、収集分野、範囲、作業方法などで業務量が多大であることから、「教育関係者必携」、「県立学校事務提要」、「教育関係通達集」「校務運営に関する集録(教頭協会編集)」などに文面そのものが掲載されているものを除き、それ以外の文書を収集対象としています。

まず手始めとして、「県立学校事務提要」(以下「提要」という。)に根拠通知として本文右欄外に掲載されている県通知文書の中から、文書番号、タイトル等のみで文面の中身そのものが掲載されていないものを紙ベースで収集し、これらをPDFに変換して、電子データ化を図っていくという地道な作業を行っています。

現在、提要に記載された文書タイトルを集約した一覧表を各編ごとに作成し、今年度は提要の庶務編について、データ(紙、電子)の有無を確認中です。これまで手がけた収入編や支出編も含め、未だに見つからない文書があるため、完成に至っておりません。

しかしながらこれが完成すると、提要を補完できるものとして、業務の一助となると確信しておりますので、是非本委員会へのご意見ご要望等を各地区の委員へお寄せください。また、我々の手元にない通知文書も多々ありますので、文書を提供等していただくと助かります。

今後とも当委員会へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

2. 活動状況

- (1) 第1回 平成30年9月26日(水) 場所：福岡リーセントホテル
今年度活動の検討、今後の取り組み
通知文書の収集分野、範囲・・・県立学校事務提要庶務編
- (2) 分野ごとに担当者を割り当て、庶務編に係る文書の収集及び電子データ化を行う。
- (3) 第2回 平成31年1月下旬予定 場所：福岡リーセントホテル
データ作成の進捗状況について
検討及び資料収集の整理、各学校への照会検討

●事務提要委員会（委員長 赤尾 恵美）

事務提要委員会は、今年度も提要4編の追録原稿作成、及び就学支援金等マニュアルの更新を行っております。なお発行は、31年度当初を予定しております。

6月5日、第1回県委員会を博多青松高校で行い、提要4編の地区別担当箇所、及び就学支援金等マニュアル追録の方針決定、役割分担を決め、活動を始めました。

「提要4編」については、7月・8月、各地区別に精力的に原稿作りに取り組みました。

作業は各地区順調に進み、8月17日、博多青松高校に4地区が原稿を持ち寄り集約作業を行い、8月30日、玄界高校にて追録原稿の再点検を行いました。9月18日、財務課予算係へ追録原稿のチェックを依頼し、財務課予算係から、教育庁各主管課へチェック依頼を行っていただき、関係各課のご理解、ご協力のもと、12月中にチェック済み追録原稿が戻り、1月中に追録原稿再チェック作業を行い、その後、業者に追録原稿を送り、校正作業を経て本追録の発行となります。

「就学支援金等マニュアル」については、提要追録原稿同様、7月・8月に各担当ごとに原稿作りに取り組み、8月10日、小倉高校でマニュアル作成の作業状況を確認し、8月17日、博多青松高校でマニュアルの編集作業を行い、9月18日、財務課学校予算係へ原稿点検を依頼しました。

「事務提要ライブラリー版」については、業者からの追録が出来き次第、更新出来るよう頑張っています。

「文書分類表」の更新については、3月初旬には、ライブラリーに登載し各学校に配布できるようにいたします。

また、事務提要委員会では、会員の皆様のご意見・ご要望等を寄せていただくため、「め安箱」を協会のスマートページに設置しております。（スマートページ> G 教育庁のフォルダにあります。）皆様、大いにご活用ください。

さらに、委員は多忙な本務の合間を縫って、多くは自分の時間を割いて活動しており各地区の地区委員の皆様にも鋭意ご協力をいただいております。加えて、事務提要委員会の編集等の活動に際しましてご協力いただきました関係機関や事務提要委員の皆様には大変感謝しております。

最後に、会員の皆様におかれましては、今後とも事務提要委員会へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

●情報委員会（委員長 佐伯 伸）

1. 平成30年度の活動

今年度も、昨年同様3つの研究班（ホームページ研究班・行コミ研究班・SNS研究班）に分かれて、協会活動の広報についてグループ研究を行いました。ホームページ研究班は、他県協会のレイアウトやコンテンツを参照しながら、6月と10月に「総会の議決事項」と「協会だより」を更新しました。更新のスピードアップは昨年に比べかなり向上したと思います。次に行コミ研究班は、「給与例規集」や「協会だより」のライブラリー掲載や昨年同様アーカイブの整理を進めました。SNS研究班は、平成32年度開催の九州大会（福岡大会）での広報活用を念頭に、ストレージを利用したネットワーク共有と利用者

モラルについての研究を行っています。

さて、情報委員会の本来の活動目的は「電子県庁」「行コミ」におけるホームページの作成と活用方法の研究と組織図にあります。近年 ICT を活用した授業が学校現場で進み、電子黒板やタブレット等の ICT 教材や支援ソフトが導入される中、物品調達や予算管理を担う事務職員の資質として、ICT 教材活用に関する知識や情報は不可欠となってきました。これらのことから、11月に福岡市内で開催された ICT セミナーに参加し、教育機器を活用した授業活用事例について研修を行いました。「校内にある 2300 台の iPad は文具」とおっしゃる講師の大川幸祐先生（日本大学三島高等学校）の「ICT 教育の導入には、①初期費用②ビジョン③マナーの 3 つがカギを握る」という言葉が心に残りました。またセミナーに参加し、熱心に話を聞かれていた九州各県の高校の先生方と情報交換ができたことも有益でした。やはり、生徒たちが自由に身近で機器に触れる教育環境を整備することが重要だと強く感じました。

話は変わりますが、最近、県内外の事務職員協会や事務長会での研究テーマとして、「防災拠点としての学校」がよく取り上げられています。避難者の受入方法や命に関わる水・食料・毛布等の備蓄品が話題の中心となりますが、総務省は「もの」と「人」以上に、災害時の「情報」を重視し、防災拠点での公衆無線 LAN 環境として WiFi 環境の整備を進めています。近いうちにも整備事業に関わる事務職員も現れるかもしれません。防災時の「情報」にかかわる研究もテーマになるかもしれません。ソサエティ 4.0（情報化社会）から未来のソサエティ 5.0（人工知能社会）へと様々な分野で議論がはじまりました。これから「情報」という言葉は、「水」や「空気」同様、益々私たちにとって必要不可欠な生活必需品となってくるのではないのでしょうか。

最後に、事務職員の皆さんの中には、情報スキルの高い方は多数おられます。ただし情報スキルは格差の激しさも指摘されています。今後も会員間の情報交換の機会を増やし、たくさんのヒントをいただきながら、会員の皆さんに還元できる研究を進めていきたいと思っています。今後とも情報委員会をよろしく願います。

2. 活動状況

- (1) 第 1 回 平成 30 年 9 月 4 日(火) 小倉リーセントホテル
 - ・協会ホームページの更新について
 - ・情報セキュリティ強化に伴う諸問題
 - ・ICT 教育環境の促進について
 - ・研究図書交換による情報交換
- (2) 第 2 回 平成 30 年 11 月 11 日(日) 大塚商会九州支店セミナールーム
 - ・先進 ICT 事例セミナー@福岡
 - ・講演「ICT (iPad) 導入 3 年 学校にもたらされたもの」「iPad 導入までの道のり」

中堅事務職員研修会報告

開催日：平成 30 年 11 月 22 日(木)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

北筑高等学校 事務主査 田中 美菜子（開会式、講演）

開会式では、全国公立高等学校事務職員協会会長より、本研修会に全国より 69 名の次世代リーダーが参加している旨、そして今回の研修を通して、現代社会における心の健康管理であるメンタルヘルスの必要性を把握し、自信や可能性を引き出せる次世代リーダーの活躍を願いますとの話がありました。

引き続き、株式会社総合教育コンサルティングの前田京子氏による「ストレスゼロをコミュニケーション

ンで実現しよう～心の健康管理のために次世代リーダーに求められるもの～」と題して講演がありました。近年のグローバル化の波、震災、不況、生産課題など様々なストレスによって誰もが心のトラブルに陥る危険性が高い現代において、職場のメンタルヘルスとストレスコントロールの鍵を握るのはコミュニケーションの質と、カウンセリングマインドを持つ対話、ストレス耐性に基づく自己の心との向き合い方であるという話から始まりました。前田氏の講演はパワフルで面白く、メンタルヘルスとは「精神の健康」であるという導入から、何度も「自分を感じて愛を感じて相手を感じて!」、「自分を大切に周りを大切に環境を大切に・・・」と、環境が仕事に与える影響の大きさと、自分だけ良ければ精神はナンセンス、自らが職場の「場」を作る大切さを重んじること、その「場」の空気感を感じることができ、そしてその「場」の健全な職場環境づくりを自らが行うことができる重要性を実感しました。そしてその職場の人間関係を満たすことができると、各々の生きる意味や組織への帰属意識、仕事の意義の見出しの可能が高まり、それが健全な精神を養うことができるという話を聞いて、表面的な仕組みだけでなく、対話や支援のある仕組みが重要であり、自分のみならず職場の周りの人の自信や可能性を引き出せるミドルリーダーとしての役割は大変大きいものだと感じました。受け身でなく、「場」「人」「仕事」を感じ考え理解し、そして周りに発信していく度量を身につける重要性を痛感しました。今回大変有意義なこの研修に参加させていただいたことに感謝しております。ありがとうございました。

明善高等学校 事務次長 今津屋 修 (グループ研修)

午後からのグループ研修は、メンタルヘルス等についてのグループワーク研修でした。私のグループは、宮城県から沖縄県まで、年齢層も30代から50代と幅広く、事務長職として見るからに経験豊富そうな方もいれば、若手として実務の最前線としてご活躍の方も。開始当初は各地方の言葉の抑揚など、県内の研修とは随分と異なる様子を感じましたが、皆さん大人の振舞で程なく空気も和らぎ、笑顔がこぼれる場面もあったり、次々に話題が出てきたりと非常に良い雰囲気になりました。

与えられたテーマは、職場環境向上のための実践内容をグループとして3つ挙げる事でした。私のグループは前述のように良好な雰囲気の中、次々と皆さんより案が出て、全12グループ中最初に3案を作成したので、もう1グループと共に発表の機会がありました。私の案は採用されなかったのですが、発表した3案をご紹介します。①「事務室への入室者に対して顔を(品良く)上げる」これは机仕事で下あるいはPCに顔が向かいがちな我々ですが、入室者に対する柔らかなウェルカムを表現する取組です。②「相手の名前を冠して会話(挨拶)を始める」例えば挨拶の際に「〇〇さん、おはようございます」のように、会話等の冒頭に名前呼びかけをつけることで、柔らかさや親しみを表現する取組です。③「雑談に業務関連を含ませる」日常会話の中に、さりげなく業務関連の話題を盛り込むことで、スキルアップや情報共有、共通理解を図りながら、笑いや雑談により場の空気を和ませる取組です。

以上3つの取組は、異なる府県の方々から出たものですが、共通している部分としては、昨今の人や組織は「柔らかさ」や「和み」を求めている、あるいは必要としている事でしょうか。

今回研修テーマのキーワードに「メンタルヘルス」「カウンセリング」「コーチング」「コミュニケーションスキル」等がありました。これらの言葉に潜在しているであろう「心の問題」を、自身のみならず組織としてどう捉えていくか、どう柔らかく和ませていくのか、また、自身は柔らかくできているか?上手に和んでいるか?日頃の自身の行動を顧みる良い機会となりました。今回このような研修に参加させていただき、ありがとうございました。

宇美商業高等学校 参事補佐兼事務次長 小野 尊章 (グループ研修)

今回の研修会には、全国より当初70名の参加の予定でしたが、1名欠席者がいたため、69名の参加で行われました。

研修会の第1部として、(株)総合教育コンサルティングの前田京子氏による「ストレスゼロをコミュニケーションで実現しよう」～心の健康管理のために次世代リーダーに求められるもの～の講義がありま

した。その内容は、現代社会における人間心理・ストレスのメカニズム及び現状を知り、心の健康管理（メンタルヘルス）の必要性を把握することを目的としたものでした。ストレスとは人間関係のなせる業であること、現代社会におけるメンタルヘルスの現状として深刻化している、再発が著しい、仕事の時だけ不健康になる新型うつ病の発生などによりメンタルヘルスが今、大切になっているとの話がありました。

午後からは、研修会の第1部の内容を受けて、同じく(株)総合教育コンサルティングの前田京子氏による実践的な事例演習が、参加者を12班（1班5～6名）に分けてのグループワークで行われました。

まずその1として「快適な職場環境のために」として職場環境を向上させていくことで今後実践していく3つのことを考えさせるもので、皆で共有できる話題でコミュニケーションを行う・元気なあいさつ・雑談ができる雰囲気づくりなど各班とも活発な意見がでていました。その2として、「今、自分に起きている課題を、チーム内での問いかけを通じ、自らが、課題解決を進め、従来の枠組みにないものの見方、行動具体策に気づきあらゆる課題を突破できる力を会得するトレーニング」（問いかけカトレーニング）を行いました。それは班員のうちの1名が今悩んでいる課題について発表し、班員全員で考えるものでした。基本ルールとしては、①問いかけ（アドバイス、誘導尋問は行わない）②振り返りを実施（魚の釣り方を共に編み出す）③傾聴と共感（安心・安全・信頼の場づくり）④誰がではなく、何がに目を向ける。⑤守秘義務の5つを守って討議をするよう言われました。この時点になると、皆も慣れてきたのか、色々な意見がでて討議も白熱しました。このトレーニングを行うことによって、「現在悩んでいる悩みは、解決できる本当の悩みではないかもしれず、解決できる真の課題をあぶりだすことがある」との講師の方の話があり、非常に参考になりました。

以上、研修会第1部（講義）、研修会2部（グループワーク）について、まとめましたが、今回、このような貴重な研修会に参加する機会を与您いただき、大変感謝しています。この経験を今後の業務に活かしていきたいと思えます。

田川高等学校 事務次長 山口 史郎（文部科学省講話）

今回の文部科学省講話は、国立教育政策研究所 初等中等教育研究部 副部長・総括研究官 藤原文雄氏より「近年の事務職員に係る政策と事務職員の現状」という演題で行われました。要旨は以下の通り。

学校における働き方改革が叫ばれる今日、世界的にも最も評価が高い、我が国の教師が児童生徒に対して総合的な指導を担う『日本型学校教育』の良さを維持しつつ、その枠内で教師がよりプロフェッショナルな働き方が出来るよう、業務の質的転換を図ることが課題となっている。

学校事務職員についても学校教育法第37条の「事務に従事する」の文言を「事務をつかさどる」に変更し、管理職や教職員との適切な業務連携や専門性を生かして学校の事務を一定の責任をもって自己の担当事項として処理すること、より主体的・積極的に校務運営に参画することを目指すものとしている。また、新たな職務を踏まえ、資質や能力、意欲のある事務職員の採用また研修等を通じた育成に努めることも推進しなければならない。

今後、事務職員が求められる資質・能力も変化してくる。今までは正確・迅速な実務処理能力が最も重要視されたが、これからは、学校全体を見渡し問題を発見し解決する能力が必要となってくる。具体的には学校経営方針に対しての意見の提案や社会の変化を先取りしてのアイデアの提案など、今までの事務職員にとっては意識の外にあったものを取り込んでいかなければならないのである。

資質・能力向上の基本は経験学習である。①具体的経験（新しいことへの挑戦）②内省的観察（経験の振り返り、他人からの意見等多角的な視点からの捉え直し）③抽象的概念化（経験からの法則発見や他の方法との照合により自分の仕事のやり方を見出す。）④能動的実験（自分のやり方の検証、修正）を繰り返すことで成長し、職業的転機を迎えることとなる。



「^し至 ^{そく}足 ^{ゆう}優 ^{ゆう}游」

「平成の終わりに思うこと」

富田 浩一（元福岡県立城南高等学校参事兼事務長）
平成 24 年 3 月 31 日退職

もうすぐ平成の時代が終わろうとしている。「平成の時代とはどのような時代だったのだろうか」とあらためて考えてみることにしました。

私が就職したのが昭和 49 年（1974 年）、昭和が終わったのが昭和 64 年（1989 年）1 月 7 日（土）でした。昭和天皇が崩御され、翌日 1 月 8 日から「平成」という新しい元号の時代が始まった。当時の小淵恵三内閣官房長官（後の内閣総理大臣）の記者会見の発表した様子を鮮明に覚えています。

平成元年の世界情勢をみると、6 月には中国で天安門事件が発生、11 月 10 日にはベルリンの壁が崩壊し東西冷戦が終結。国内では 4 月に任天堂の「ゲームボーイ」の発売、年末には日経平均株価が過去最高の 38,957 円 44 銭を記録とあり、この後、株価は翌年から暴落を続け日本経済はバブルがはじけて失われた 20 年と言われた時代に入ることになりました。消費税（3%）が導入されたのもこの年です。

私の事務職員としてのスタートは昭和 49 年（1974 年）6 月 1 日、当時の修猷館高等学校定時制でした。事務機器はアナログの世界です。まだそろばんが幅を利かせており、先輩の事務職員の方はそろばんを駆使し給与計算を行っていた時代でした。勿論コピー機や電卓すら出回り始めたばかりでした。各所属で小切手を振り出しての支払いや、毎月「支出簿」という帳簿を締め、証拠書を出納事務局に提出していた時代です。今考えるとある意味ではのんびりした時代でした。その後、昭和 50 年代の終わりごろからコンピュータシステムが給与計算や支出事務に導入され始めました。その頃、県立学校事務提要の支出の部分の編集に係わったのが若かった頃の思い出の一つです。

私は昭和 62 年に当時の指導第二部義務教育課で配市町村立学校の人事を担当する係に配属されました。そこでいきなり「コンピュータ」というものに出会いました。県庁の 6 階に電算室がありその横に端末機がたくさん置いてある部屋ありました。見るのも触るのも初めてです。8 インチの大きなフロッピーディスクを渡され、A4 用紙 1 枚に書かれてあるマニュアルらしきものをみながら必死でキーボードと格闘したのが思い出されます。

「平成」への改元を経験したのはこの義務教育課に在職のときでした。その後の事務処理の電子化の流れの速さはあらためていう必要はないと思います。自分で初めてノートパソコンを購入したのが確か平成 2 年頃でしたか、表計算ソフトのロータス 123 に出会ったのもこの頃です。その後、財務課では当たり前のように端末機から各学校に予算を配当する時代になりました。教育センターに勤務していた頃にはコンピュータの 2000 年問題というものもありました。これは西暦 2000 年になるとコンピュータが誤作動を起こす可能性があると言われたものでした。センターには大型の電算システムがあり、システム上、日付を扱う際に西暦の下 2 桁で処理した場合に大きな問題が生ずるかもしれないというものらしかったのですが、素人の私にはよく理解できませんでしたし大きな問題も発生しませんでした。

学校事務は、私が在職した 38 年間の間にも大きく変化し複雑化しました。特に平成になってからは、

そのスピードは速さを増したように感じます。これからの時代は事務作業など AI に置き換えられ学校事務室のありようも大きく変わるかも知れません。しかしながら学校は「ひと」が「ひと」を教育する現場です。「ひと」でなければできないことはたくさんあると考えます。皆さんひとり一人が学校現場における教育行財政の専門家として常に研鑽を積み県民の負託に応え、誇りをもって自分の職務に邁進していただきたいと思います。

城南高等学校での 6 年間の勤務後、学校現場を離れ事務局職員として 17 年間教育庁本庁、出先機関で過ごし、自分の原点である学校現場に戻り 11 年。最後に母校である城南高等学校での定年までの 3 年間は幸せな 3 年間でした。あれからもう 6 年余りになるのかと思うと月日の経つのが年々早く過ぎるように思われてなりません。

